

SERI NEWS RELEASE

平成 22 年 7 月 15 日

財団法人静岡経済研究所
理事長 古知弘行
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

平成 22 年 7～9 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

- ～「現在の状況」は、『普通』 2 業種、『低調』 10 業種、『不調』 8 業種～
- 平成22年 6 月実施の静岡県内主要産業（20 業種）の四半期見通し調査では、現在（4～6 月）の業況は、『好調』、『順調』の業種はなく、『普通』が 2 業種、『低調』が 10 業種、『不調』が 8 業種となった。
 - 平成22年 7～9 月の見通しについては、20 業種中 3 業種が『やや上昇』、17 業種が『横ばい』となった。
 - 国内需要の自律回復への道は遠く、県内産業景気は低迷が続いているが、7～9 月期の見通しでは、『下降』を予想する業種が平成20年 3 月調査以来、久々にゼロとなり、底打ち感も感じられる。

引き続き低調ながら 県内産業景気は下げ止まり、底打ち感も

静岡県内産業の四半期ごとの業況推移

年次		平成19年		平成20年				平成21年				平成22年	
四半期												(今回調査)	
対象月(は調査月)		7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～
業界景気の現況	好調 ☀	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	順調 ○	1	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0
	普通 🌓	11	9	8	8	7	3	0	1	0	0	1	2
	低調 ☁	8	10	11	10	11	17	12	13	14	14	11	10
	不調 🌧	1	1	1	0	0	0	8	6	6	6	8	8
	全業種の平均階級値	2.68	2.59	2.55	2.60	2.55	2.15	1.60	1.75	1.70	1.70	1.65	1.70
業界景気の見通し	上昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇	0	0	1	0	0	0	1	2	1	0	0	3
	横ばい	22	22	21	16	18	5	13	17	17	18	19	17
	やや下降	0	0	0	4	2	15	6	1	2	2	1	0
	下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1)「業界景気の現況」及び「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(6月調査であれば4～6月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(6月調査であれば7～9月期)の見通しを示す。

注2)調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
調査時点...平成22年6月中旬
調査対象企業...県内主要20業種(174社)

注3)平成20年第 四半期(4～6月)時点で調査対象業種を変更しており、それ以前と以降の数値に連続性はない。

注4)平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

県内主要産業の動向

(1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成22年4～6月期）の業況は、『好調』、『順調』の業種はなく、『普通』が2業種、『低調』が10業種、『不調』が8業種となった。エコポイント、補助金など政策効果の持続で販売が堅調な「家電量販店」と「自動車販売」が『普通』となったものの、凍霜害に見舞われて一番茶の生産量が大きく落ち込んだ「製茶」と、公共工事受注が伸びない「建設」の2業種が『低調』から『不調』へと1段階ダウンした。

(2) 業界景気の見通しについて

平成22年7～9月期の景気見通しは、20業種中3業種が『やや上昇』、17業種が『横ばい』で、『(やや)下降』を見込む業種はなかった。『やや上昇』の3業種は、アジア向け輸出が回復しつつある「工作機械」と、補助金期限切れ前の駆け込み需要が見込まれる「自動車部品」、好天要因やボーナス支給の恩恵が期待される「外食」。残る17業種は『横ばい』の予想で、引き続きエコ関連商品の堅調な販売が見込まれる「家電量販店」、「自動車販売」が『普通』のまま『横ばい』の見通し。一方、雇用・所得環境の好転が見込めない中で個人需要の低迷が続いている「製茶」、「二輪車部品」、「住宅」、「大型小売店」と、民需、官需とも振るわない「建設」、「リース」、「人材派遣業」の計7業種では、『不調』のまま『横ばい』が予想される。また、「民生用電器部品」、「食品・飲料」など8業種では、リーマンショック以降の最悪期こそ脱したとみられるものの回復力は弱く、『低調』のまま『横ばい』が続く見通し。

なお、半期調査業種では、中・高級品の受注量が伸び悩む「家具」が『低調』のまま『横ばい』、「楽器」は国内市場の不振をアジアの新興国向け輸出でカバーして『不調』から『やや上昇』の見通し。

(3) 需給バランス、在庫水準、価格動向について

『需給バランス』をみると、調査対象19業種のうち14業種で『供給超過』、5業種で『均衡』と、前回の3月調査と比べ、やや改善しそうである。『在庫水準』も、前回5業種あった『過多』が2業種（「家庭紙」、「産業用紙」）に減少し、在庫圧縮が進められてきたことがうかがわれる。また、『製品価格』の『上昇』を見込む業種がない一方で、「食品・飲料」、「民生用電器部品」、「自動車部品」、「二輪車部品」の4業種では『原材料価格』の『上昇』が予想され、再び収益が悪化する懸念も出ている。

エコカー補助金などの経済対策の適用期限も迫る中、国内需要の自律回復への道は遠く、県内産業景気は低迷が続いているが、7～9月期の見通しでは、下降を予想する業種が平成20年3月調査以来、久々にゼロとなり、底打ち感も感じられる。一方で、多くの製造業では、業績回復は相変わらず輸出頼みながら、これまで重視してきた欧米向けが不安定なため、中国をはじめとしたアジア新興国向けへの対応の巧拙がカギを握りそうだ。

主要業種の現況と7～9月期の景況見通し

業種	業界天気	仕入の苦労が続く中、家庭需要の回復に期待
製茶	////	(現況)・凍霜害や天候不順の影響で、県内の一番茶生産量は前年比1～2割減少し、平均単価は+1～2割上昇した。生育の遅れもあって、多くの製茶問屋が八十八夜商戦における販売機会を逃し、総じて減収減益を余儀なくされた。
茶	////	(見通し)・県内の二番茶生産は、摘採が梅雨にずれ込み大幅減産となり、県外産で代替する動きが増すが、製茶問屋の仕入コスト上昇は不可避とみられる。販売面では、ドリンク需要は前年並みを見込むが、家庭の購入数量、支出金額は下げ止まりの気配もあり、家庭需要の回復が期待される。

業種	業界天気	中元商戦は期待できないものの、内食関連は堅調
食品・飲料	●●	(現況)・ツナ缶は、需要の低迷や原料価格の上昇を受けて、生産量は前年を、5～10%下回った模様。飲料缶も、春先に天候不順と低温が続いたことから、生産量は前年を5～10%下回ったとみられる。
	●●	(見通し)・ツナ缶は、中元商戦での需要が期待できず、カツオの魚価も上昇傾向にあることから、生産量は前年を下回る見通し。飲料缶は、天候不順で不調だった前年並みの生産量を確保できる見通し。一方、消費者の節約志向から、レトルトやふりかけなどの内食関連は、前年を上回る生産量が期待できる。

業種	業界天気	需要の低迷が続き、値上げ交渉は難航
家庭紙	●●	(現況)・需要の低迷が続き、生産量は前年を1割前後下回ったとみられる。各社とも需給の緩みによって在庫が増加し、表明していた値上げも実施できず、製品価格は横ばいだった。古紙価格は4月に値上がりして以後は、横ばいで推移した。
	●●	(見通し)・需要の回復は見込み難い上に在庫も高水準にあることから、7～9月の生産量は前年をやや下回るとみられる。製品価格についても、不需要期で値上げは難しく、横ばいで推移する見込み。操業度の低下、製品価格の低位推移などによる収益悪化が懸念される。

業種	業界天気	本格回復は見込み難く、低迷が続く
産業用紙	●●	(現況)・4～6月の生産量は、前年をわずかに上回ったものの、リーマンショック前の水準を1割前後下回って推移した。4～5月に低温が続いたことで、農作物用の荷動きが少なかった模様。市況は横ばいで推移した。
	●●	(見通し)・自動車関連など一部業種向けは改善しているものの、全般に需要が回復する兆しはみえず、生産量は前年とほぼ同水準で推移する見込み。現行の減産体制を維持することで、市況は横ばいを保つ見通し。値上がり懸念のある古紙価格も、中国への輸出に一服感が出ており、横ばいが予想される。

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 ////不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	前年実績は上回るものの、水準は低い
工作機械	●●	<p>(現況)・全国および県内の受注額は、外需については中国をはじめとした新興国の需要が回復していることから、前年比3～4倍で推移、また国内も同2倍程度で推移したとみられる。ただし、水準はピークの70%程度にとどまる。</p> <p>(見通し)・内需・外需とも、前年の水準が極端に低かったことから、2～4倍で推移する見通しだが、依然として水準は低い。需要が伸びている中国では、現地メーカーとの競争激化から、価格引下げを迫られることもあり、収益面では厳しい状況が続く見込み。</p>

業種	業界天気	白物家電は堅調に推移、携帯電話は前年割れ
民生用電器部品	●●	<p>(現況)・エアコンや冷蔵庫は、昨年5月のエコポイント制度開始で持ち直した前年の出荷額を、さらに+1割程度上回って推移した。一方、携帯電話の出荷額は、買い替え周期の長期化などを受けて、前年を3割ほど下回った。</p> <p>(見通し)・エアコンの出荷額は、冷夏の影響で低水準だった前年を+1～2割上回りそう。冷蔵庫も、エコポイント付与が大きい大型機種が+2割、全体で+1割程度増加する見込み。携帯電話は、買い替え需要が低迷する中、海外製スマートフォンなどとの競合も激化しており、前年割れの見通し。</p>

業種	業界天気	エコカー補助金の終了までは、安定的な受注が続く
自動車部品	●●	<p>(現況)・自動車の国内生産台数は、大幅な落ち込みとなった前年の反動で、大きく上回った模様。部品メーカーの出荷高は、リーマンショック以前の2割程度の水準にあり、1～3月との比較では、ほぼ横ばいで推移した。</p> <p>(見通し)・完成車メーカーの生産計画は、増産基調にあり、前年を上回る見込み。これに伴って、部品メーカーの受注量も安定的に推移するとみられる。ただし、エコカー補助金が終了する10月以降の販売台数の落ち込みが懸念される中、設備投資や新規採用には慎重な姿勢が続く見通し。</p>

業種	業界天気	受注量は低水準で推移、他業種の取引先開拓が活発化
二輪車部品	////	<p>(現況)・4～6月の全国完成車生産台数は、前年実績こそ上回るものの、生産水準は低い状況が続く。国内では原付2種が健闘するのみで、北米・欧州市場の回復の足取りは重い。部品メーカーの受注量は、一昨年同期の5～7割と振るわず。</p> <p>(見通し)・7～9月の全国完成車生産台数は、流通在庫の調整に取り組む完成車メーカーの生産抑制基調を受け、引き続き低水準で推移する見込み。部品メーカーの受注量も本格回復する兆しがみえず、事業存続のため、自動車や電気機器など他業種の取引先を開拓する動きが活発化しそう。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 ////不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	公共工事は前年比 2割減、民間建築工事も低調
建設		(現況)・公共工事は、前年実績を 3割程度下回った模様。年度初めで、国・公団関連を中心に大型工事の発注が少なかった。民間建築工事は、医療・福祉関連など一部に動きがみられたが、全体の水準は低く、前年をやや下回って推移した。
		(見通し)・公共工事は、前年を 2割程度下回る見通し。自治体からの発注はピークを迎えるが、県内各自治体の建設事業費は軒並み減少している。民間建築工事は、改善傾向にある企業収益を背景に設備投資意欲は持ち直しつつあるものの、本格的な回復には今しばらく時間を要し、低調に推移する見込み。

業種	業界天気	所得環境の改善は見込み難く、着工戸数の回復は限定的
住宅		(現況)・新設住宅着工戸数は、前年実績を 1～2割程度下回って推移した模様。持ち直しつつある持家は前年並みに推移したが、貸家と分譲マンションは依然として供給過剰感が拭えず、前年を下回って推移した。
		(見通し)・新設住宅着工戸数は、低水準に推移した前年の反動で、前年実績を +5～10%程度上回って推移する見通し。贈与税の非課税枠拡大、住宅エコポイントなど住宅取得支援策の下支えにより取得マインドは上向きつつあるが、消費者の所得環境の改善は見込み難く、着工戸数の回復は限定的とみられる。

業種	業界天気	一部商品は持ち直しつつも、消費者の慎重な姿勢は続く
大型小売店		(現況)・百貨店の売上高は前年割れとなったが、物産展効果で食料品が好調で、宝飾品などの高額品の持ち直しもあり、マイナス幅は縮小。総合スーパーは、引き続き衣料品が苦戦し、天候不順などで食料品も振るわず、売上高は前年を下回った。
		(見通し)・百貨店は、一部の高額品では持ち直しの動きがみられるが、依然として消費者の購買行動は慎重で、夏のセールや中元ギフトの売れ行きも期待薄であり、前年を下回る模様。総合スーパーは、消費者の低価格志向が根強く、客単価の減少傾向は続くとみられ、既存店売上高は、前年割れする見込み。

業種	業界天気	低価格競争が常態化し、前年割れが続く
食品スーパー		(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年実績を 5～6%程度下回って推移した模様。前年比マイナス幅が縮小しているため、最悪期は脱したとの見方もあるが、消費者マインドは、依然として低迷した状態。
		(見通し)・消費者マインドの大幅な改善は見込み難く、低価格競争が常態化していることから、県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年を下回る見通し。現状の売上水準の中で利益を確保するべく、仕入価格の引下げや、固定費削減の動きが進みそう。

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	政策効果と新型車投入により、全車種で前年比プラスに
自動車販売	●	<p>(現況)・県内の乗用車販売台数は前年比+23.7%と、3四半期連続で前年を上回った。普通乗用車は+46.3%、小型乗用車は+22.1%と政策効果が続いている。新型車投入が相次いだ軽乗用車も+11.2%と、6四半期振りに前年を上回った。</p> <p>(見通し)・普通・小型乗用車の販売台数は、9月末に予想されるエコカー補助金の終了前の駆け込み需要や、相次ぐ新型車の投入により、前年比プラスで推移する見通し。一方、軽乗用車も、販売が回復基調にあり、不振だった前年をわずかに上回って推移する見込み。</p>

業種	業界天気	ボーナス商戦入りで、薄型テレビなどの販売は堅調に推移
家電量販店	●	<p>(現況)・薄型テレビの販売額は、エコポイント効果やサッカーW杯特需を受けて、前年比プラスを確保した。また、エコポイント制度の浸透で、冷蔵庫の販売額も前年を上回った。その他の製品の販売額も、前年並みの水準を確保した模様。</p> <p>(見通し)・薄型テレビは、地上デジタル放送移行を控え、リビング用の大型テレビの買い替えは一巡したとみられるが、ボーナス商戦を迎え、寝室や子供部屋用の小型テレビの買い替え需要が期待される。エアコンは、冷夏で不調だった前年の反動増、冷蔵庫も、エコポイント効果で堅調な販売が見込まれる。</p>

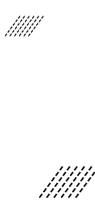
業種	業界天気	ユーザー企業の生産調整に改善傾向がみられ、前年比微増
運輸・倉庫	●●	<p>(現況)・トラック輸送量は、飲料や紙・パルプ関連が低調だった一方、政策効果を追い風にした自動車関連の需要が堅調で、全体では前年並みの水準で推移したとみられる。普通倉庫は、主力の電気機械の荷動きが鈍く、入出庫量は前年並みとなった模様。</p> <p>(見通し)・トラック輸送量は、ユーザー企業の生産調整に改善傾向がみられることから、前年比微増で推移すると予想される。普通倉庫は、主力の紙・パルプや、夏に向けて飲料や電気機械の荷動きに期待がかかり、入出庫量は前年をやや上回って推移すると予想される。</p>

業種	業界天気	企業の開発案件は先送りの傾向、官公需も振るわず
情報サービス	●●	<p>(現況)・全国の情報サービス業の売上高は、前年を下回って推移した模様。県内でも、顧客企業が発注に慎重な姿勢を崩しておらず、新規案件の不足を既存ソフトのバージョンアップや維持管理業務による収益で補う傾向がみられる。</p> <p>(見通し)・全国の情報サービス業の売上高は、前年割れとなる見込み。県内では、卸・小売といった非製造業の小口案件に動きがみられるが、製造業で生産支援ソフト開発が先送りされるなど、引き続き需要が停滞しそうである。事業仕分けの影響で官公需も盛り上がり欠け、当面は厳しい状況が続くそう。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 // 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	世帯収入の増加を背景に、売上高は小幅プラス
外食		<p>(現況)・主要外食店の売上高は、前年をやや下回った。外食から内食・中食へのシフトは一段落したが、低価格志向は常態化している。子ども手当が支給されたが、前年の定額給付金に匹敵するほどの即効のプラス効果は得られなかった模様。</p> <p>(見通し)・主要外食店の売上高は、前年を+5%ほど上回る見通し。子ども手当の支給、ボーナス増加により世帯収入も増えることに加え、長期予報によると7～9月の気温は平年並み以上となる確率が80%で、とくに8月は晴れの日が多いとみられ、レジャー外出・外食の機会も増加しそう。</p>

業種	業界天気	客数は反動増が期待できるが、客単価は伸び悩み
観光・レジャー		<p>(現況)・県内主要旅館の総売上高は、ゴールデンウィーク期間に好調だったことや、前年の新型インフルエンザ流行による外出抑制の反動増もあって前年を+5%ほど上回った模様。日帰り客も梅雨入りが遅かったことから伸張した。</p> <p>(見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回る見通し。これは、前年の長梅雨や駿河湾における地震の反動増が主因で、さらなる上積み材料は少ない状態。旅行者の財布のヒモは依然として固く、宿泊代や飲食代、みやげ代といった客単価上昇は難しいとみられる。</p>

業種	業界天気	需要回復の兆しみえず、厳しさ増す
リース		<p>(現況)・県内のリース件数・契約高は、設備投資に慎重な企業が多く、需要の減少に歯止めがかからない状況にあり、とくに、主力の輸送用機器関連の案件の落込みが目立つことから、前年実績を10%程度下回って推移した模様。</p> <p>(見通し)・太陽光発電など環境関連の案件に期待が掛かるものの、全体の需要を底上げするにはほど遠く、リース件数・契約高ともに、前年実績を10%程度下回って推移する見通し。案件規模が小額な上に、金融機関との競合も激しくなっており、収益面で厳しさが増しそう。</p>

業種	業界天気	需要は下げ止まりつつあるが、IT・サービス関連は苦戦
人材派遣		<p>(現況)・静岡県内の実働派遣労働者数は、前年比で10%前後減少した模様。事務系は、年度替わりでの派遣需要が回復しつつあり、下げ止まりの傾向がみられる。一方で製造系は、短期の直接雇用や請負への切替えが進行した。</p> <p>(見通し)・静岡県内の実働派遣労働者数は、前年を5～10%程度下回る見通し。事務系は、前年比の減少幅は縮小するものの、ITや販売・サービス関連での派遣需要は低調に推移するとみられる。製造系では引き続き、期間工や請負への切替えが進み、実働派遣労働者数は前年比で大幅に減少する見通し。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 //不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	中・高級品の受注が小ロットにとどまり、全体では横ばい
家具(半期ベース)	 	<p>(現況)・県内の木製家具は、消費者の低価格志向の高まりから、組立て家具やインターネット通販などの低価格家具は堅調に推移したが、主力の中・高級家具は低迷が続き、総出荷額は前年を1割程度下回った模様。</p> <p>(見通し)・低価格帯の家具は、比較的堅調に推移すると予想される。一方、中・高級家具は、6月開催の家具メッセに出品された新商品や薄型テレビ対応のテレビボードなどの需要の盛り上がりにより期待がかかるが、受注はいずれも小ロットになりそう。総じて県内の木製家具総出荷額は、横ばいで推移する見通し。</p>

業種	業界天気	国内の苦戦を中国など海外でカバーし、前年比プラス
楽器(半期ベース)	 	<p>(現況)・国内は新商品を投入しても需要を十分に喚起できず、売上が伸び悩んでいる。外需は回復基調にあり、所得が増加している中国などアジア地域での売上が拡大したほか、欧米でも前年を上回る売上をみせ、全体では前年比ほぼ横ばい。</p> <p>(見通し)・楽器の売上高は、前年比でプラスに転じる見込み。国内では需要回復になお時間がかかるが、アジア地域の工場から逆輸入する堅型ピアノの普及モデルの販売は伸張する見通し。海外では、アジア地域で音楽教室が定着する中、生徒向けのピアノ需要が拡大する見込み。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 // 不調 業界天気は上段が1～6月期、下段が7～12月期

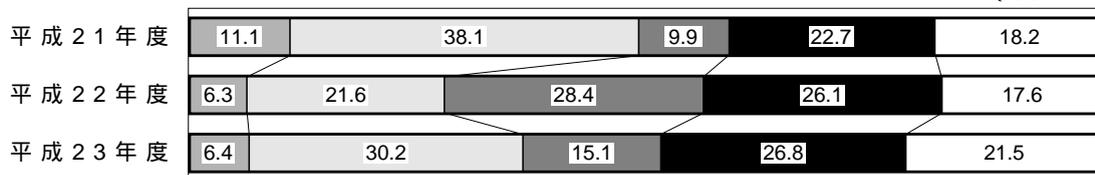
ウォッチング 抑制スタンスが続く新卒者の採用方針

平成23年度の静岡県内企業の新卒者採用方針は、「抑制」が15.1%、「採用しない」が26.8%と、4割以上の企業が採用に消極的である（図表）。前年度と比べると、「抑制」する企業の割合は下がっているが、「増加」は大幅に低下した前年度調査とほぼ同じ6.4%であり、採用拡大に転じる企業はほとんどない。

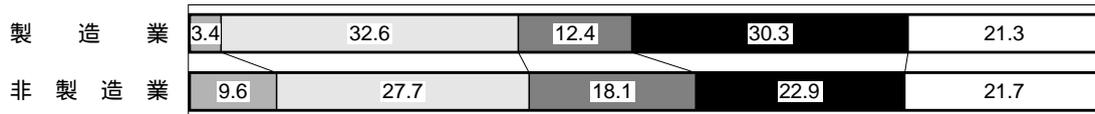
とくに製造業では、「増加」はわずか3.4%で、厳しい経営環境から人員増加に乗り出せない状況が続いている。また、国内、世界経済の情勢が不安定で業績見通しを立て難いことなどから、5分の1以上の企業が「未定」としている。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針

（単位：％）



（業種別）



■増加 □今年度並み ■抑制 ■採用しない □未定

調査要領：調査時点平成22年6月、調査対象企業数179社、回答社数172社、有効回答率96.1%